

令和7年度 埼玉県利根保健医療圏難病対策地域協議会 議事録概要

- 1 開催日時 令和8年1月8日(木)午後1時30分～2時50分
- 2 方法 ハイブリッド開催(集合型会場は幸手保健所、Teamsによるオンライン)
- 3 出席者
【委員】 関谷栄委員、植山直人委員、尾方克久委員、本澤一路委員、新井孝幸委員、橋本寛子委員、熊谷理恵委員、荒瀬久美子委員、助川真由委員、熊谷聡子委員、千葉慎也委員、大橋秀幸委員、茂澤伸行委員、長岡孝之委員、風間重文委員、成田恵理子委員、一ノ瀬元章委員
(欠席者：山根有人委員、太田万郷委員、森園秀子委員)
疾病対策課1名
事務局 12名出席(加須保健所4名・幸手保健所8名)

4 議事内容

- 1) テーマ「在宅難病患者支援の充実」
 - (1) 埼玉県の難病患者支援について(疾病対策課)
 - (2) 難病患者の状況
 - (3) 各市町の難病患者に係る取組みについて
 - (i) 蓮田市健康福祉部障がい者支援課 熊谷聡子委員
福祉避難所設営運営訓練について発表
 - (ii) 羽生市健康福祉部社会福祉課 一ノ瀬委員
障害福祉サービスである重度訪問介護について発表
 - (4) 事例紹介
在宅難病患者一時入院事業を利用しながら在宅生活を送る事例について発表

(5) 意見交換

【情報交換概要】

- ・在宅難病患者一時入院事業も今年度で10年目を迎え、受入れ医療機関数も増えていく。レスパイトや介護者の予定等どんなきっかけでもよいので医療につながる接点を持つために利用してもらえるとよい。災害時の訓練含め、早くサポートにつながるメリットにもなる。在宅難病患者一時入院事業については県疾病対策課とともに周知を行っていききたい。(尾方委員)
- ・災害対策や在宅支援等含め、ここ数年でゆっくりではあるが確実に進んできている。患者さんからのアンケートを基にどう不安を解消していくか施策化していく必要がある。(植山委員)
- ・難病患者支援の対策では多職種連携が必要になる。歯科からは、口腔ケアを通じて支援や連携推進していきたい。(本澤委員)

- 在宅難病患者一時入院事業の受入れ医療機関が県南に多く、北部に少ない状況のため、より多くの医療機関に協力してもらえるとよい。(新井委員)
- 訪問看護ステーションでは、利用者に災害対策について指導を行っている。医療機器を利用している人には「東京電力の広域停電に備えた事前登録制度」を案内している。登録をした利用者からは安心の声をいただいている。この制度を他の事業所にも広めていきたい。(橋本委員)
- 患者さんから相談を受けるが、災害時に薬はどうしたらよいのかと相談を受けることも多い。今回の意見交換等も踏まえ相談に役立てたい。(荒瀬委員)
- 難病患者一時入院事業も令和3年から利用日数が拡大し、今年度も既に多くの方に利用してもらっている。難病診療連携コーディネーターが調整を行っているが、利用後の意見や感想を聞く機会がないため本日の内容を共有したい。(熊谷理恵委員)
- 一時入院事業はもっと活用していただきたい制度なので、周知度を高めるような取組もあるとよい。今後も難病患者の支援について関係機関が協力し、推進していけるよう期待したい。(関谷委員)